

# 秩父の旅 2020



2020年9月

旅のチカラ研究所 植木圭二

埼玉県秩父にちょっと面白い旅館があることを知り、妻と泊まってきた。それは築200年の農家をリフォームし、元相撲取りが経営している元気な宿だった。

## ■旅のきっかけはテレビ番組

今回泊まる宿はNHKテレビの漫才コンビがお風呂をいただく番組で紹介されたもので、その宿は「二百年農家屋敷 宮本家」という。名前が示すように築200年の農家を旅館としてリフォームしたもので、建物もさることながらその館主が元相撲取りという異色の経歴の持ち主という面白い宿である。

この宿は私が通常泊まる宿よりも少し高い価格帯の宿で普段ならば素通りするところだが、今はGo To トラベルキャンペーンが使えるために多少高くても構わないと調べてみるとそんなに高くはない。Go To トラベルキャンペーンがなくても十分に宿泊できる価格で、高そうだからと敬遠していただけのことである。

Go To トラベルキャンペーンは今までに泊まったことのない高級旅館、あるいは高級そうだからと敬遠していた旅館に泊まることができるという思わぬ副産物を生み出している。少なくとも私にとっては今までと違う感動を味わえるという意味では十分に役立っている。

## ■奥多摩を再訪

私の家から寄り道をしなければ秩父には2~3時間で行ける。しかしせつかくのドライブ旅行なので、秩父に行く前に途中の青梅や奥多摩に立ち寄ることにした。そこは2カ月前に私の旅友たち300オカルテットと訪れており、感動や発見があつて面白かったからである。300オカルテットとは私を含めた4人の年齢の合計が300才を超えているという旅仲間たちで、私以外は後期高齢者だが皆元気な人たちだ。

妻にもその時の旅の思い出をわって欲しく、中でも武蔵御嶽神社は是非見せたいと思って訪れた。

武蔵御嶽神社に行くにはケーブルカーに乗り、15分程山道を歩くことになる。途中には約30軒の宿坊が立ち並ぶエリアがあり、その中には立派で情緒豊かな宿坊も多い。案の定というか早速妻はそれらの宿坊を見て驚いている。私も前回来た時には相当驚いた。

その宿坊のいくつかが気になったので、もしも次回来て泊まるならばどの宿坊がいいのかというのをある程度は目星をつけておきたい、ビジターセンターに立ち寄ってお勧めの宿坊を聞くことにした。

公共の案内所の場合は「どこがお勧めですか？」というストレートな質問をすると、特定の宿を教えるとひいきすることになるので通常は答えてくれない。そのため私は「建物が古く、歴史を感じる宿はどこですか？」と案内の女性に訊ねた。すると彼女は「そういう宿ならば御嶽山荘ですね」と教えてくれ、さらに「茅葺の宿ならば東馬場ですね」と付け加えてくれた。

その彼女の言葉を確認するかのように宿坊エリアを歩くと、まさしくそんな宿が私たちの視野に入ってきた。確かに雰囲気抜群の宿だ。



<御嶽山荘>

そして宿坊エリアの先には少し急な坂道があり、その後はたくさんの階段が続く。300 オカルテットはここを登るのに休みながら大変苦労したが、本日はそんなに苦にはならない。やはり妻と私は幾多の歩き旅をこなしてきたからだろう。

いくつかの歩き旅のシーンが浮かんでくる。箱根駅伝ルート往復の歩き旅、小豆島八十八カ所お遍路歩き旅、秩父往還歩き旅、・・・どれも 100km 以上の歩き旅ばかりだ。乗り物の旅と違って自分の足で歩くから足跡が残り、その足跡とは思いつつもそのものだから忘れられない。

そんな思い出に浸りながら御嶽神社の本殿に到着する。まずは旅の安全を祈願して参拝をし、本殿奥にある遥拝所も訪れる。これも前回同様の流れで、離れた山の中腹にある奥の院に向かって参拝する。

参拝に来ていた若いカップルの女性が遥拝所を見て「これは何？」としゃべっているのを耳にした私は彼氏を差し置いて「向こうに見える奥の院が、日本武尊（ヤマトタケル）を祀ってあるところで、ここからは谷を越えてあそこに向かって拝むという遥拝所ですよ」と教えてあげた。彼女は「お詳しいんですね、ありがとうございます」と言ってくれたが、彼氏にとってはいい迷惑だったかもしれない。こういうのを「いらぬおせっかい」というのだろう。

奥多摩の観光というと奥多摩湖がメインだが、私と同郷の群馬県出身の妻にとってはダム湖など見慣れておりあまり感激しない。それよりも多摩川が造った溪谷の方が奥多摩らしさを感じるだろうと「鳩ノ巣溪谷」にやってきた。

鳩ノ巢溪谷は風光明媚な溪谷でももちろんつり橋が架かっており、つり橋を渡って対岸から河原に降りることができる。綺麗な川で水遊びを楽しむ観光客も多くいる。

奥多摩には溪谷とつり橋という組み合わせの観光名所が多い。それは日本の山間地の原風景とでもいうものかもしれない。そういえば私たちが何気なく見ているその風景は、外国ではあまり見かけることがない。それは日本のように緑豊かな山が少ないのと、急峻な溪谷に流れる綺麗な川は外国ではかなり珍しいからだろう。

驚いたのは水遊びを楽しむ観光客の半分くらいは外国人でそれも欧米人だ。このコロナ禍なので日本在住の人たちだろうが、それにしても不思議な感じがする。偶然にここに来て水遊びをしたというよりもクチコミや SNS での事前情報を得てやってきているようでゴムボートやフィンなど充実した遊び道具を持っている。まだまだ残暑厳しい時季なので涼しそうにしている彼らを見て感じることは、欧米人は川遊びを体験し楽しむために来ているが、私たち日本人はただ見るだけで写真を撮りに来ているという違いである。それは国民性もあるだろうが、おそらく彼らにとってこのような綺麗な水と溪谷そしてつり橋というロケーションが相当珍しく、こういったものがある日本の山間地の原風景に憧れがあるのだろう。

#### ■秩父ミュージックパーク

時々ニュースで話題になる都道府県の魅力度ランキングというがある。2019年の調査では1位は北海道、以降は京都、東京、沖縄、神奈川となっている。逆に下位の方かというと41位の鳥取、そして埼玉、栃木、徳島、群馬、佐賀、茨城と連なっている。毎年若干の入れ替わりはあるもののそれらの県の定位置はほぼ決まっている。

これから行く埼玉の魅力度が低い理由の一つとしては観光名所があまりないことが考えられるが、私はその埼玉にあって唯一の観光地は秩父だと思っている。日本三大曳山祭りの秩父夜祭、秩父三社や秩父三十四霊場巡りという信仰の地、その他に芝桜の名所、秩父蒸留所、豚味噌井、温泉となかなか素晴らしい。この観光地がありながら下位グループに甘んじているのは宣伝やイメージ創りが弱いのだろうか。

その秩父に入ってきた。それも魅力度ランキング上位の神奈川、東京から入ってきた訳だが、秩父の街は自信たっぷりに悠然と構えて迎え入れてくれたように感じられる。

秩父に妻とは何度も来ており、その中でも秩父往還という旧街道を甲府から熊谷まで140kmを歩いた時は秩父夜祭の最中だったので多くの人で賑わっていた。従って市の中心街はかなり良く知っているが、郊外はあまり知らない。今回私たちが泊まる宿は秩父市の隣にある小鹿野町にあり、秩父の市街地を抜けて「秩父ミュージックパーク」という広い公園の中を通り抜けていく。

この秩父ミュージックパークの広さと設備には驚いた。この公園は埼玉県が管理する区域と秩父市が管理する区域があり、簡単にいうと2つの公園が合わさったようなものになっているから実に広い。

単に森林や芝生だけでなく花の回廊という自然公園で、施設として音楽堂、野外ステージ、ちびっこ広場、展望台、休憩施設、農林産物直売所があり、スポーツを楽しむサイクリングセンター、テニスコート、波のプール、・・・何でもある。ここに来れば1日たっぷりと遊ぶことができる。

あの欧米人たちに教えれば、喜んで遊びに来るに違いない。いや、この公園はむしろ欧米の公園に似ており日本の原風景とは正反対なので興味を示さないかもしれない。それとも故郷の国に帰ったような気分になるかもしれない。いずれにしても、私の中では今回また秩父の評価が上がった。

#### ■200年の宿

宿に到着し、駐車場で出迎えてくれたのはお客を案内するために待機していた和服姿が様になっている若い女性スタッフだ。いやここは伝統の宿なので仲居さんと呼んでおこう。

門をくぐると見えてきた2階建ての母屋は築200年とは思えないような建物で、少なくとも外観は新しく感じられる。



<宮本家の母屋>

仲居さんに案内されて通されたのは母屋ではなく「帳場」と書かれた離れの小屋で、この小屋に受付の機能がここに集約されているらしくチェックイン、チェックアウト、会計もここでするようになっており、最近流行りになっている自分の好きな浴衣もここで選ぶことができる。

浴衣と言ってもいわゆる寝間着というよりも、もう少し高級で本格的なものがそろっている。浴衣だけでなく帯も本格的で、男性用には力士帯として兵児帯（へこおび）が用意されている。

そのあたりのこだわりがいかにも元相撲取りの宿という感じがする。しかしながら最近の人には兵児帯は結べる人は少ないだろうなと思いつつ、私はちょっと優越感を感じながら兵児帯を選んだ。



<帳場にある浴衣類>

母屋の部屋に案内されながら、私が仲居さんに「本日は満室ですか？」と聞く。すると「お陰様で満室です。しかし、私どもは1日に6組しかお客様を取らないので、ほぼ毎日が満室です」という予想外の答えが返ってきた。

私は「それはコロナのせいですか？」と聞くと、彼女は「コロナ以前から6組でした」との返事で、6組で経営が成り立つのかと私は少し心配し始めた。

私たちが泊まる部屋は6畳の取次の間とその奥に10畳の主寝室がある。しかし取次の間とか主寝室とかという呼び方は実はあまり似つかわしくない。それはこの家の造りが昔の農家そのものだからで、そんなことを意識して200年前に建てられたのではない。

昔の農家の造りは襖で仕切られた部屋がたくさんあるので、旅館に使えるようにリフォームした時に二間続きの構造になったのは偶然の産物なのだろう。

そのため部屋にはトイレも洗面所もなく、床の間もない。部屋の窓側にはエアコンだけは付いているが、テレビや鏡台、タンスは作り付けになっておらず部屋の隅に普通に置かれている。

それにしても200年という割には古さを感じない。

それは何故かというところこの宿は現代建築技術でリフォームをしている。部屋の壁は土壁のように見えるが、土壁風の壁紙が使われている。柱などの木材も古そうに見えるが新しい木材をくすぶったように黒く加工したもので、最近流行りの古民家風のリフォームというものだろう。あくまでも古民家“風”である。

ただ細かく見ていくと所どころ古い200年前の木材を発見する。部屋と部屋の間敷居や押し入れの中には古い柱がある。ユネスコの世界遺産の場合は、昔の材料や工法で補修することが要求されるが、この宿ではそこまではこだわらずにリフォームをしたということなのだろう。

築200年の農家なのでそれなりに傷んでおり、それでも完全に壊さずに使えるような古い骨格を残しているから「二百年農家屋敷」を名乗っているのだろう。

## ■風呂

この宿には4つの風呂があるが、6組しかいないので全て貸し切り風呂にしており、予約する必要もなく空いていれば勝手に入って中から鍵をかけるというシステムになっている。

まずは「昭和風レンガ風呂」に入る。昭和風というのは何となく理解できる表現だが、むしろ私は“レンガ風呂”という表現の方に違和感を覚えた。実はレンガではなくレンガに似せた赤いタイルを使っている。一般的に防水や肌触りを考えればレンガは浴槽には使わない。従って正確に言えば昭和風“レンガ風”風呂だろう。何やらこの宿は〇〇風が多いような気がしてくる。

次に入った「ゆず庭園風呂」は風呂の外に2畳くらいの小さな庭があって、そこに柚子の木が植えてあり柚子の実が1個生っている。これで、“ゆず庭園”を名乗るのは無理があるような気がしてくる。それでも風呂全体は小奇麗で気持ちよく入浴できる。

“ゆず”の付かない普通の「庭園風呂」もある。中に入ると庭園が風呂の前にあり、それを眺めながら入浴できる。これならば庭園風呂を名乗っても無理ではないだろう。とはいっても庭園はあまり広くはなく狭い敷地に苦勞して樹々や庭石を配しており、庭師の苦勞の跡が感じられる。それでも窓を全開にすると露天の気分も味わうことができるから、仲居さんが一番のお勧めと言っていた意味が分かった。

以上の3つの風呂の湯船はどれも広く、最大で10人くらいは同時に入浴できるサイズなのに、妻と2人、あるいは私1人で占有するので実にゆったりして気持ち良い。これは6組限定だからできるもので、お客がこの宿に何を求めて来るのかということを考えている証だろう。

広い風呂以外に少し変わり種の「釜風呂」というのがある。直径1.5m程の鉄製の釜を湯船にした風呂で、仲居さんの話では下から薪を燃やして沸かしているという。それならば五右衛門風呂を名乗っても間違いではないはずだが、釜は熱くなく蛇口をひねると温泉が出る注ぎ口があるので下から薪で焚いてはいないような気がする。本当に下から直火で沸かすと鉄の釜は熱くて触れないので下手をすると火傷することになる。

といってもあの正直そうな仲居さんがこんなことで嘘をつくはずもなく、二重底になっているとか、お客の安全を考えて入浴中は焚いていないのかもしれない。

この釜風呂は下から薪で焚くためなのか高い台の上の乗っており、湯船に入るためには階段を登るようになっている。そのように見えた目がユニークなので、テレビアニメの「サザエさん」で一家が秩父旅行をするシーンで使われたという。その時の絵コンテが風呂の入口に貼ってある。



<釜風呂の登り口>



<上から見た釜風呂>

近くにある姉妹館「宮本の湯」に土俵を模した風呂があり、雑誌やインターネットでよく紹介されている。通常は宮本家に泊まっても宮本の湯に入浴できるというが、現在はコロナ禍で密を避けるために入場制限をしており、残念ながら本日その姉妹館が満員のために入れなかった。

#### ■蔵で飲む酒

仲居さんから「夕食に6時に離れの“蔵 Bar”に来てください」と言われていたので、私は離れにある昔の蔵を改装した蔵 Bar なる看板を出しているお洒落な蔵の戸を開けた。

蔵の中では元相撲取りの館主が迎えてくれた。元相撲取りというだけあってがっしりした体格をしている。

食前酒を振舞ってくれるというので、100本くらいある地酒や果実酒の中から好きなものを選んでくださいという。しかしあまり知らない銘柄ばかりなので、オススメを聞くと館主は「私の現役時代の四股名“剣武（つるぎだけ）”と同じ名前のこの酒がいいですよ」と勧めてくれた。この酒は朝鮮人参のエキスを入れた酒なので精力がつくということで、私は迷わず剣武を頼んだ。妻は私たちが泊まっている部屋の名前が「どど芽の間」ということでどど芽、つまり桑の実から造った果実酒をいただいた。

館主から宿や彼自身の紹介をしてもらいおおよそのことが分かってきた。館主は8年前に角界を引退し父親のやっていた稼業を継いだ。現役時代の体重は160kgだったが、今は120kgになったという。身長181cmということもあり今でも十分に大きい。

かつて高見盛という人気力士がいたが、この館主も人なつっこい雰囲気が高見盛に似ている気がする。そんな人柄も手伝って引退後の事業でも成功しているようで、頂いた名刺の裏にはこの宿以外にいくつかの宿や観光施設が書かれており手広く事業をやっている様子だ。とはいっても人柄だけでは成功しないので相撲で鍛えた体や人間関係、そして努力をしているのだろう。

この宿は大昔からの旅館ではなく200年前に建てられたこの家は普通の農家だったという。明治になって養蚕が盛んになるにつれて人を泊めるようになり旅館業のようなことをやるようになり、15年程前に先代つまり彼の父親が現在の建物にリフォームした。

先代や先々代から聞いた昔の話や、相撲取り時代の苦労話など時間の経過を忘れるほどに話してくれた。



<館主を挟んで記念撮影>



<昔の宮本家の写真>

気が付くと 20 分も経っており、私が「他のお客は来ないのですか」と聞くと、「次の組は 6 時 30 分からですからまだ時間があります」という。

何とこの館主は宿泊客全員と各組 30 分ずつ時間を割いて、食前酒をきっかけに宿や地元のこと、自分のことを話している。そのアイデアやバイタリティには恐れ入ってしまった。

### ■たっぷりの食事

30 分の食前酒、それも強い酒ばかり飲んだので私は少々飲み過ぎたようだが、ようやく夕食にありつくことになる。

この宿の食事の特徴はやはり量だろう。ただし元相撲取りだからといって単に量が多いということだけではなく、その種類が豊富だということ付け加えておこう。

最初に出てきたのは前菜だ。一般的にどの宿では 3~4 種というところだが、この宿の前菜は盛り合わせで 10 種類もある。内容はというと健康的な地元野菜をふんだんに使った田舎料理“風”の前菜になっている。

前菜だけでこれだけのボリュームで、この後に刺身や焼き物などの普通のコースで出てくる。



<前菜の盛り合わせ>

そして元相撲取りという期待するのは“ちゃんこ鍋”である。相撲取りが引退するとちゃんこ料理屋を出すというのは相場だが、下積みの長かった力士ほどちゃんこ番が長いので、無名力士ほどその相撲部屋のちゃんこ鍋の味を引き継いでいる。逆に早く出世した力士はちゃんこ番の経験が浅い。どちらが美味いかは言うまでもない。しかしながら何もその力士本人が作る必要はないので資金があれば優秀な料理人を雇えばよく、世の中は実に良くできている。

さてこの館主、剣武の最高位は前頭 16 枚目というから、一応幕内力士だった訳だから出世した方だろう。では味は期待できないかという食べてみるとそんなことはない。野菜たっぷりのちゃんこ鍋で結構いける。しかしながらとにかくボリュームがある。街のちゃんこ料理屋で食べると主役はちゃんこ鍋で他は少々というのが定番だが、ここではそれなりのコース料理の他に普通にちゃんこ鍋が付いているからかなりタフな食事になる。

常に完食を目指す私でも全部食べるのは相当に辛かった。それでも何とか完食したが、食後の2時間程は布団で横になって動けなかったくらいだ。

朝食もボリュームいっぱいの料理が並んでいる。最近私が泊まる旅館では夕食と間違ふほどの品ぞろいの朝食の宿が多いが、ここもまさしくそのパターンだ。

#### ■収穫体験

宮本家グループの「秩父ふるさと村」という田舎体験できる施設がある。そこで野菜の収穫体験ができて収穫した野菜は持ち帰れるというありがたい無料体験チケットを宿でもらった。

暑いので朝一番でチェックアウトして秩父ふるさと村を訪れてみた。ここ農園でだけでなく川遊びや大自然の中でアウトドア体験もできるという施設になっている。

そして受付をしているのは昨日宿にいた館主である。私が「昨日はどうも」と挨拶をすると、彼は「スタッフが出払っていて、私しか手が空いていないので申し訳ありません」と少し照れ臭そうに言っている。彼は社長自らがこんなところで受付をしているのを気にしているのかもしれないが、むしろ私には社長が何でもやって頑張っている姿はとても微笑ましく感じ、なかなかできないことだと感心する。

照れ臭そうでも元気いっぱいの彼から収穫用のハサミを借りて、畑に生っているピーマン、茄子、オクラの収穫作業を始める。たくさん生っているので10分もしないうちにビニール袋いっぱいまで収穫できた。さらにふるさと村で今朝収穫したキュウリとジャガイモも段ボール箱にあつて、これらも持って行ってくれと言われたので遠慮なくいただいてきた。

こんなサービスでも体験したことがない人にとっては楽しいもので、何よりも採れたての野菜をもらえるのは本当にありがたい。

第二の人生に挑戦しながらアイデアを出してどんどん実行している元相撲取りの姿に、私は何か心打たれる思いがした。これならば6組しか取らなくて経営は大丈夫かなどと心配するのは余計な必要かもしれない。逆に平日でも常に100%の客室稼働率というのは大したものだと感心する。

最後に館主の言葉を思い出した。「元相撲取りがやっている料理屋はいっぱいありますが、旅館はここ一軒だけです」と胸を張っていた。

#### ■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひよい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合いながらも最終的に温泉や宿を評価して5段階で数値化する。

評価の基準は、5は驚きや感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、1は失望や落胆としている。

宮本家は泉質 3、風呂 4、料理 4、コスパ 3.5、サービス 5、建物・部屋 4、立地環境 3、総合点（平均値）は 3.78 だった。

サービスを高くした理由は館主のやる気や人柄、仲居さんの対応を評価した。コスパは宿のものものの評価なので Go To トラベルキャンペーンなどの割引は無いものとした。

総合点は一般的には 5 段階の 75%にあたる 3.75 がまずまずという目安のラインになる。

泉質はアルカリ性単純硫黄冷鉱泉で低張性アルカリ泉、pH9.1、湧出温度は 10.2℃と低い。

#### ■旅の記録

実施は 2020 年 8 月 23 日（日）～24 日（月）の 2 日間、その行程を以下に示す。

- ・ 1 日目 9 時自宅を出発、圏央道を経由して青梅 IC で降り、昼食  
御嶽ケーブルカーで御嶽神社参拝、鳩ノ巣溪谷、15 時に宮本家チェックイン
- ・ 2 日目 9 時チェックアウト、秩父ふるさと村で野菜収穫体験、12 時帰宅

2 人分の費用は還付金を相殺して約 3 万円、内訳は以下に示す。

- ・ 宿泊費 宮本家 31000 円（現地で支払った 2 人分、1 泊 2 食料金 15000 円×2、入湯税 150 円×2、生ビール 700 円×1）  
ただし Go To トラベルキャンペーン割引が 10500 円還付され実質 20500 円
- ・ 昼食代 ファミリーレストランにて 1538 円（2 人分）
- ・ 交通費 約 8000 円  
（高速道路往復 3180 円、ガソリン代約 1800 円、ケーブルカー 1130 円×2 駐車場 600 円）